# 令和元年度 院内ボランティア総会・研修会

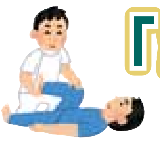
[日 時] 令和元年6月26日（水）11:30～18:30／［場 所］南館4階大会議室／［参加者］10名

JA吉田総合病院ボランティアの総会・研修会を開催致しました。平成13年から発足した活動は今年で18年目となりました。発足当初から活躍されている方は80代になられています。いつも当院を見守り、共に歩んで来て下さったメンバーの方からは「昔はこんなことがあったよね」「ボランティアで皆と会うのが楽しみ」とお話を頂きました。

研修会では、当院危機管理室の中村邦夫担当から詐欺被害や犯行手口について「よく分かる！詐欺講座」を開催し、身近で実際に起こった事例をもとに意見交換をしました。

定期的に当院へボランティアに来て頂き、患者さんが安心して治療に臨めるように快適な環境を提供して頂いているボランティアの皆さまのお力に心より感謝申し上げます。

地域に開かれた病院として患者さん、地域住民の方、当院スタッフとの交流やふれあいの機会を提供する時間となりますよう今後も努力してまいりますのでよろしくお願い致します。



## 「第23回 広島県理学療法士学会」に参加して

リハビリテーション科 理学療法士　林　達 也

今回、第23回広島県理学療法士学会で「人工膝関節全置換術後における荷重時期の違いによる効果」の発表で優秀賞をいただきました。理学療法士学会での発表は初めての試みだったので、わからないことだらけでしたが、整形外科医師の協力やリハビリテーション科のスタッフの日頃の努力が報われたのではないかと感じています。この発表を機に、今後も患者様に最適なより良いリハビリテーションを提供していけたらと思います。

## INFORMATION お知らせ

### 第5回 市民公開講座

『最期まで“笑顔”で生き抜く
～ともに暮らそう住み慣れたこのまちで～』

日 時：令和元年11月16日（土）13時15分～16時（予定）
場 所：安芸高田市民文化センター（クリスタルアージョ）にて
（詳細は後日お知らせいたします。ご参加をお待ちしています。）

募集中!! JA吉田総合病院は「院内ボランティア募集中」です。ご連絡をお待ちしています。
お問合せ：JA吉田総合病院地域医療連携室
電話 0826-42-0669（森川）まで

### 「第21回病院祭・第30回のぞみ祭」
### “地域まるごと健康づくり”

日 時：令和元年10月5日（土）10時～15時

- 広島大学生による演奏会
- 高猿子供神楽
- 吉田中学校 吹奏楽演奏
- クイズラリー
- 大抽選会
- 終活相談コーナー

など

その他、楽しい催しをたくさん用意しています。
多数のご参加をお待ちしております。



Public information magazine of the Yoshida general hospital
青空 AOZORA
やさしい心で
良質な医療を
秋号 vol.63
JA吉田総合病院
発行／広島県厚生農業協同組合連合会 吉田総合病院
〒731-0595 広島県安芸高田市吉田町吉田3666
Tel.0826-42-0636 Fax.0826-47-0007
2019年（令和元年）9月発行
http://yoshida-gene-hospi.jp/
Facebookを開設しています

病棟紹介

# 患者さんや家族と共に目標を考え、チーム医療を提供します

7-1病棟　平田　薫

JA吉田総合病院の7-1病棟は、精神科閉鎖病棟です。県内で唯一の閉鎖病棟を持つ総合病院であり、身体合併症を持つ患者さんを県内全域から受け入れています。精神疾患とともに身体合併症を持つ患者さんに、適切な医療・看護を早期に、安全に提供するために内科・外科・整形外科など身体を診る医師との連携を取りながら行っています。

病床数は62床で、精神保健指定医4名、看護師23名、クラーク1名、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、薬剤師、管理栄養士が連携してチーム医療を提供しています。精神疾患では、統合失調症、躁うつ病、認知症、精神発達遅滞の患者さんが入院しています。身体合併症の疾患は、骨折、癌など主に手術を必要とされる患者さんが多く、手術前後の精神症状に注意しながら、医師との連携を密にし安心して医療・看護が受けられるように努めています。また7-2病棟の精神科開放病棟と協力をしながら病棟運営を行っています。

看護師の役割として、地域包括ケアシステムが進む中で、精神疾患を持ちながら住み慣れた地域で、自分らしい生活がおくれるように、身体症状や精神症状が改善すれば紹介元の施設や単科の精神科病院に退院して頂くように支援を行っています。精神科の患者さんは精神症状が悪化すると、日常生活が乱れる患者さんが多く、患者さんに合わせた生活指導も看護師の大きな役割となってきます。長期入院患者さんに、喜びや・楽しさ・季節感を味わってもらうために花見、夏祭り、クリスマス会などのレクリエーションを行っています。

医療や看護の提供は、信頼関係が重要となってきます。そのため毎日の患者さんや家族の方との関わりの中から、コミュニケーションを大切にし信頼関係を築くことに努めています。患者さんの話をしっかり聞き、出来ている部分に目を向けながら、患者さんや家族が大切にしていることを目標設定の中に取り入れ、一緒に考え意思決定支援に努めています。

精神科看護は援助を必要としている方々に対し、個人の尊厳と権利を守ることや専門的知識と技術を用い、自律の回復を通して、その人らしい生活が出来るように支援することが求められています。また、スタッフ全員が接遇・倫理観を持ち、患者さんや家族を大切にし「吉田総合病院の精神科病棟に入院して良かった」と言って頂けるよう信頼される病棟づくりに、取り組んでいきます。

令和元年度 安芸高田市在宅医療・介護連携推進事業

# 多職種連携学習会

【日　時】令和元年7月18日(木) 18：30～20：00
【場　所】南館4階大会議室
【参加者】74名

テーマ「あなたが寄り添う人の意思決定支援を考える」　講師 広島県福祉保健局がん対策課 緩和ケア推進監 本家 好文 先生

## 本家好文先生のACP（アドバンス・ケア・プランニング）普及のお話を聞いて

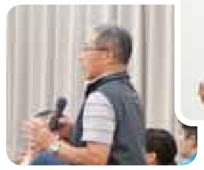
JA吉田総合病院 看護科 西丸 照美

人間はいつどうなるかはわかりません。命の危険が迫ると約70%の人が自分で決定し希望を伝えることが出来なくなると言われています。もしもの時にどんな医療を受けたいのかを考えておくACPが必要になります。大抵の人が賛同しますが、実際に希望を書面で作成している一般国民は8.1%だそうです。

ACPは愛称「人生会議」となり「いい看取り・いい看取られ」との語呂合わせで11月30日を「人生会議の日」として、国民全体で考えて行くべきものとなりました。

このような中、本家先生の講義を受けました。ACPに対して漠然と抱いていたイメージが、具体的な方法論として私の中にストンと落ちた印象でした。腑に落ちた点が3つありました。

①ACPは早すぎても遅すぎてもダメ。導入タイミングがある。退院時、施設入所時、定年退職時等。
②ACPは緩和ケアの第一歩。この患者が一年以内に亡くなったら驚きますか?の問いに、もし驚かないなら緩和ケアを始めたほうがいい。
③価値観や人生観について元気なうちから家族や医療者と話し合っておく取り組みを実施して「地域の文化」にする。



この中で私が実行できることは、定年間近な身なので自身のACPを作成することと、家族の次に心から話し合える地域の中の医療者であることです。そして、地域のためにある当院の職員が、ACPをしっかり理解しなければならないと実感した研修会でした。

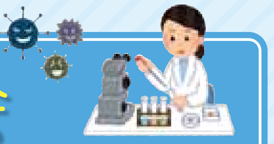
# 職場体験学習を実施しました

[日 時] 令和元年7月8日～12日（5日間）　[対 象] 安芸高田市立吉田中学2年生 4名

吉田中学校2年生の職場体験学習に4名の生徒の受け入れを行いました。働くことの厳しさや喜びを体験し、一人一人将来の夢に向けて考え学ぶ機会とされています。

4名の生徒はそれぞれ将来なりたい職業や方向性を持ち、学ぶ目的を事前に話し合ってこの体験学習にのぞみました。初日は病院全体の見学と医療に関わる人達の国家資格や仕事内容、喜びや厳しさ等聴き、見学しました。2日目からは療養病棟と老人保健施設のぞみで指導者から説明を受け、看護や介護の仕事の内容を見学、食事前の準備や入浴後の整髪、入所者の方との会話やレクリエーションを通して人とのコミュニケーションの大切さと難しさも体験しました。またそれぞれの職種が互いの力を出し合いチームで医療を提供しているチーム医療や、カンファレンスを体験しプロとしての知識技術の高さにびっくりし、印象に残ったようでした。医療・介護に関することや職種の事を学び、知識を共有し合うことで、働くことの意味や働くことで誰かの為になり、生きがい、やりがいとなり、仕事を通して自分の人格を認めてもらうことになる、など4名は働くことの意味を学ぶ事が出来ました。安芸高田市の中核病院である吉田総合病院では、小学生、中学生、高校生の皆さんが医療・介護の仕事に魅力を感じ、担い手となって将来この地で活躍してくれることを期待し応援しています。

# 第1回 院内感染防止対策研修会



【日　時】令和元年6月25日(火)・26日(水)／【参加者】223名　感染管理認定看護師 田中 千苗

JA吉田総合病院では、医療の質の向上を目指し、多職種が集まり専門性を活かしたチームが組織されています。今回は感染対策に関する活動についてご紹介します。

2016年から国の取り組みとして薬剤耐性菌対策が定められ、抗菌薬の適正使用に取り組むことが求められています。当院においても、昨年から感染対策チームのメンバーが抗菌薬適正使用支援チームを兼務して活動し、感染対策と抗菌薬の適正使用を推進しています。

チームの業務として、年2回程度全職員を対象とした研修会の実施があります。令和元年度第1回の研修会を6月25日、26日に開催しました。1時間の研修時間で30分ずつ各チームが担当し、感染対策チームは、臨床検査技師が培養検査の採り方について、抗菌薬適正使用支援チームは、医師と薬剤師が感染症事例を基に抗菌薬治療の流れについて講義しました。感染症を引き起こす細菌や抗菌薬の話しは専門的な内容となるため、参加した職員からは「難しかった」という意見も聞かれましたが、薬剤耐性菌対策の推進に向けて病院全体での取り組みに努めています。

今後も、様々な研修会の企画を行い、感染対策と薬剤耐性菌対策の向上を目指して取り組んで参ります。

# 第1回 認知症ケア向上研修会

日　時 令和元年6月19日(水) 17:30～18:30
場　所 南館4階大会議室
参加者 134名

## テーマ「せん妄について～事例を通してせん妄をアセスメント～」

認知症看護認定看護師 川上 香奈

平成24年度に認知症ケアチームを立ち上げ、活動の一つとして、認知症ケア向上研修を年間3回開催しています。今回、第1回認知症ケア向上研修会は、精神神経科足立医師より「せん妄の疾患について」研修会を開催しました。研修内容は、前半に認知症とせん妄の違い、せん妄の種類、せん妄を誘発させる因子についての講義と、後半は講義をもとにクイズに答えてもらいました。医師、看護師、事務職と多職種の参加があり、参加者からは、「せん妄と認知症の鑑別や区別ができることで、ケアに役だてる」という意見を頂きました。当院は、ますます高齢化していく地域の総合病院であるため、院内でのせん妄の知識やケアの普及を目指し、今後も活動を行っていきます。次回の研修会は、「せん妄と薬について」10月の開催を予定しています。ぜひご参加頂けますようお願いいたします。

### 実際にせん妄（意識障害）かも？と思ったら…

せん妄の発現

**準備因子**
- もともとしっかりした人？
- 認知症はある？
- その他の既往は？
- 元々意識レベルは高い人？最近の変化は？

**促進因子**
- 何か訴えていたことはなかった？（疼痛、便秘、不安など）
- 入院中に不満はなかった？
- OP後？

**直接因子**
- 入院目的は？
- 何の治療中？
- 最近服用した薬は？
- 元々飲み続けている薬は？

まずはケアを大事に。適切な対応、正しい薬の選択を。
せん妄と判断ができないときは薬は使用しない。
主治医へ報告、薬剤師へ相談など。